

シュレッダーダストの引取り・再資源化の体制整備について

自動車リサイクル法においては、自動車メーカー等にシュレッダーダスト（ASR）を破砕業者から引き取って、再資源化すべき量に関する基準（リサイクル率）に従って再資源化する義務が課せられている。

これまで自動車メーカー等は、ART：Automobile shredder residue Recycling Team（１）とTHチーム（２）の２つのチームを構成し、指定引取場所として指定する具体的なASR再資源化施設の選定を進めてきたところ。

- （１）ART：いすゞ自動車（株）、スズキ（株）、ダイムラー・クライスラー日本（株）、日産自動車（株）、日産ディーゼル工業（株）、ピー・エー・ジーインポート（株）、フォード・ジャパン・リミテッド、富士重工業（株）、マツダ（株）、三菱自動車工業（株）、三菱ふそうトラック・バス（株）、(財)自動車リサイクル促進センター再資源化支援部
- （２）THチーム：ダイハツ工業（株）、トヨタ自動車（株）、日野自動車（株）、本田技研工業（株）、アウディジャパン（株）、ピー・エム・ダブリュー（株）、プジョー・ジャポン（株）、フォルクスワーゲングループジャパン（株）

1. ASR指定引取場所（＝ASR再資源化施設）の選定状況

現時点で、各ASRチームが来年1月から使用することを想定している指定引取場所（＝ASR再資源化施設）は別添の通り。

なお、指定引取場所（＝ASR再資源化施設）には、当該施設の「ASR投入施設活用率」が0.4を超えておりリサイクル率の計算に組み入れることが可能な施設（リサイクル施設）と0.4未満でありリサイクル率の計算には組み入れることが不可能な施設が存在する。

ASR各チームにおいては、自動車メーカー等に課せられているASRのリサイクル率の達成に加え、自動車所有者の負担を軽減するため可能な限り低コストでかつ確実な再資源化の実施を念頭に置き、指定引取場所（＝ASR再資源化施設）の選定を進めてきたところ。

[ASR投入施設活用率]

各施設に投入されるASRの材料リサイクルとサーマルリサイクルの双方を加味して評価することが可能となるよう「ASRからの材料回収」と「ASR中可燃分からのエネルギー回収」の双方があると認識し、後者のエネルギー回収についてはASR重量換算という手法を用いることにより各施設のリサイクル性を評価するもの。

$$\text{A S R 投入施設活用率} = \frac{\text{回収エネルギーの A S R 換算重量} + \text{回収マテリアル重量}}{\text{投入可燃分等の A S R 換算重量合計} + \text{投入灰分の重量合計}}$$

リサイクル施設は以下のように分類される。リサイクル率の計算に組み入れることが不可能な施設としては、埋立処分場・焼却施設が存在する。

[A S R の再資源化の技術・施設の類型]

		技術・施設の説明
分類 1	燃料代替 + 原料化	非鉄金属精錬等の素材産業の既存産業の既存設備を活用し、A S R 中の可燃成分を燃料に代替することに加え、銅をはじめとする金属等を回収する技術。
分類 2	焼却処理 + 熱回収 + 原料化	焼却処理を行って連続するボイラーによって蒸気や電力の形で熱回収を行うとともに、その焼却灰等を灰溶融炉で処理して金属資源やスラグを回収する技術。
分類 3	乾留ガス化 + ガス利用 + 原料化	A S R を乾留ガス化して、発生する燃料ガスを改質・精製後そのまま利用する技術。乾留残さについては、工業カーボン材料等に利用するか溶融化して金属資源やスラグ回収する。
分類 4	乾留ガス化 + 熱回収 + 原料化	A S R を乾留ガス化して、連続する二次燃焼炉・ボイラーで熱回収・発電を行う技術。乾留残さについては、溶融化して金属資源やスラグを回収する。
分類 5	素材選別 + 燃料代替	種々の選別工程を加えて、特定の単一素材を回収・再利用する技術。

2 . 2 0 0 5 年における各 A S R チームの A S R の再資源化量

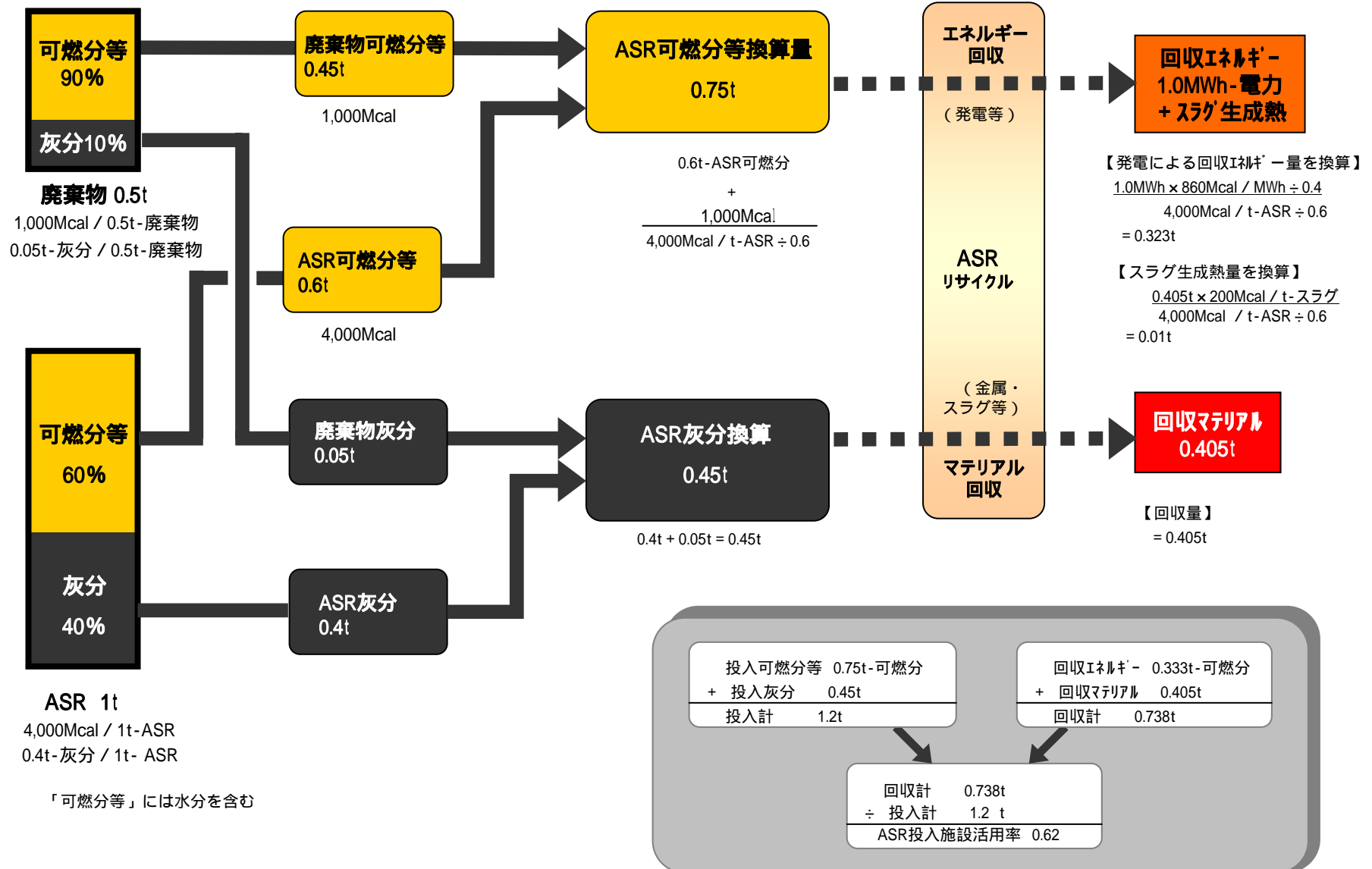
自動車メーカー等には、以下のような A S R のリサイクル率が課せられているところ。

[A S R のリサイクル率]

	A S R のリサイクル率
2 0 0 5 年度以降	3 0 % 以上
2 0 1 0 年度以降	5 0 % 以上
2 0 1 5 年度以降	7 0 % 以上

2 0 0 5 年において想定される各 A S R チームの A S R 発生量と A S R 再資源化量は別添の通り。

ASR投入施設活用率の具体的な計算方法（例）



ARTの指定引取場所一覧

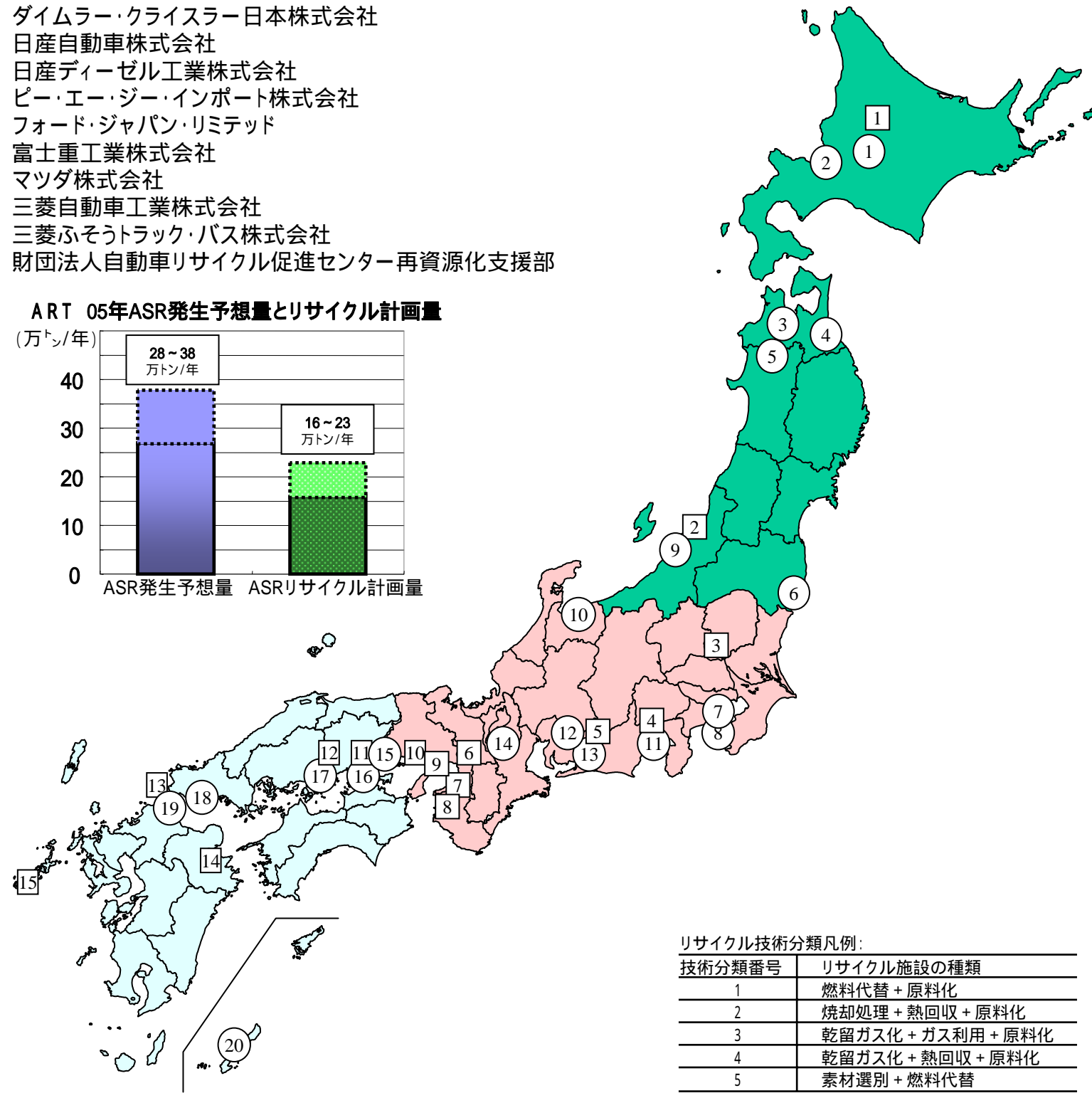
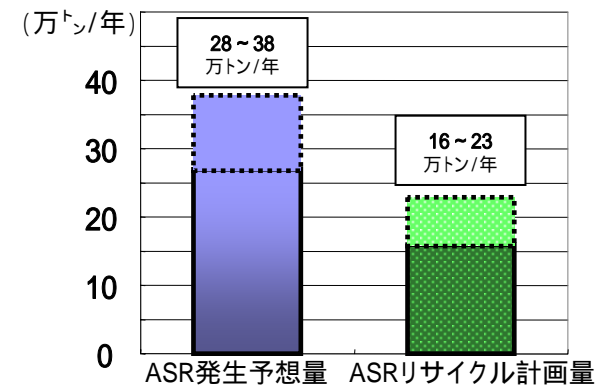
2004年11月9日現在

ART(Automobile shredder residue Recycling promotion Team)

- いすゞ自動車株式会社
- スズキ株式会社
- ダイムラー・クライスラー日本株式会社
- 日産自動車株式会社
- 日産ディーゼル工業株式会社
- ピー・イー・ジー・インポート株式会社
- フォード・ジャパン・リミテッド
- 富士重工業株式会社
- マツダ株式会社
- 三菱自動車工業株式会社
- 三菱ふそうトラック・バス株式会社
- 財団法人自動車リサイクル促進センター再資源化支援部

(○:リサイクル施設、□:その他施設)

ART 05年ASR発生予想量とリサイクル計画量



リサイクル技術分類凡例:

技術分類番号	リサイクル施設の種類
1	燃料代替 + 原料化
2	焼却処理 + 熱回収 + 原料化
3	乾留ガス化 + ガス利用 + 原料化
4	乾留ガス化 + 熱回収 + 原料化
5	素材選別 + 燃料代替

指定引取場所となる再資源化施設(リサイクル)

地図上の番号	施設名	リサイクル技術分類
1	株式会社エコバレー 歌志内	4
2	株式会社マテック ASR資源化工場	5
3	青森リニューアブル・エナジー・リサイクリング株式会社	4
4	東北東京鐵鋼株式会社	5
5	小坂製錬株式会社	1
6	小名浜製錬株式会社 小名浜製錬所	1
7	株式会社ヤマナカ	3
8	株式会社日産クリエイティブサービス	2
9	シモダ産業株式会社	4
10	日鉱三日市リサイクル株式会社	1
11	株式会社佐野マルカ	5
12	豊田メタル株式会社	5
13	明海リサイクルセンター株式会社	5
14	株式会社関電L&A	3
15	同和鋳業株式会社 岡山工場	1
16	三菱マテリアル株式会社 直島製錬所	1
17	株式会社カムテックス	2
18	共英リサイクル株式会社	3
19	光和精鋳株式会社	2
20	拓南商事株式会社	5

指定引取場所となる再資源化施設(その他)

地図上の番号	施設名	再資源化の方法	
1	株式会社旭川振興公社 旭川廃棄物処理センター	埋立	
2	財団法人新潟県環境保全事業団 エコパークいずもざき	埋立	
3	東金属株式会社 群馬工場	焼却	
4	株式会社富士環境保全公社	埋立	
5	財団法人豊田加茂環境整備公社 御船処分場	埋立	
6	大阪湾広域臨海環境整備センター	大阪事業所	埋立
7		堺事業所	埋立
8		和歌山事業所	埋立
9		姫路事業所	埋立
10		尼崎事業所	埋立
11	財団法人岡山環境保全事業団 水島処分場	埋立	
12	株式会社カンガイ 新湊工場	焼却	
13	ひびき灘開発株式会社 響灘西部廃棄物処分場	埋立	
14	大山商事株式会社	焼却	
15	有限会社 元村金属産業	焼却	